

---

領域名：教養科目・専門関連科目

報告者：金城 芳秀

---

教育及び実践の課題

---

ヘルスケア環境におけるインシビリティ (incivility) は、個人、チーム、組織、そして最終的には患者の安全に悪影響を及ぼすと認識されている。看護教育者が負う倫理的責任は、健康的な職場環境を育むのに不可欠なスキルを看護学生が獲得することである。そのためには、シビリティ (civility)、プロフェッショナリズム、倫理的実践の概念を統合するカリキュラムを用意する必要がある (Clark, 2017)。この Clark の指摘は、エビデンスベースアプローチに依拠しているカリキュラム戦略を振り返る機会となった。

---

活用した論文の概要

---

Clark (2017) は、大学の使命、シビリティ言明と誓約、グランドルール、クラス目標と対応する規準など、それぞれ典型例 (Exemplar) を示した。例えば、グランドルールは、「シビリティ、プロフェッショナリズム、倫理的な行動のロールモデルを示す」「多様性に敬意を払い尊重する」「われわれの規範を遵守するために、自己でも相互でも責任を担う」などである。シビリティ、プロフェッショナリズムおよび倫理的実践を意図的にカリキュラムへ統合する戦略として、新しい学生オリエンテーション、クラスルールを明確にする授業初日、学生の参画を高めるアクティブラーニングなどが提案された。加えて、white coat ceremony あるいは lapel pin は、学生が“専門職の旅の始まり”を厳かに誓う機会になるとあらためて位置付けた。

---

教育及び実践への活用

---

Clark (2017) は、教員と学生がシビリティを持って、出会いと対話に敬意を表すことを求めている。特に、シビリティ、プロフェッショナリズム、倫理的実践に価値を置く意図を共有し、学生と共に学びの場の活用が強調されている。しかし、わが国の看護教育ではシビリティ、インシビリティは馴染みのない概念であるため、まずは認識を高める機会が必要である。この創造を目指して科研費に応募した結果、「看護学生のシビリティ (civility) を育むアクションリサーチ (基盤研究(C) 19K10809)」として 2019 年度より 4 年間取り組む準備ができた。今後、Journal Club (文献抄読会)、Students Club (専門看護師などゲストスピーカーとの対話)、Civility Exemplar Club (典型的なシビリティ例の表彰) の試みを通して、新たな学びの場の構築に挑戦する。

---

参考文献

---

Clark C.M. (2017). An Evidence-Based Approach to Integrate Civility, Professionalism, and Ethical Practice into Nursing Curricula. *Nurse Educator* 42(3), 120-126.

---